

「伝統と文化」

日本の伝統と文化は世界の誇りです

『定期総会』のお知らせ

平成30年度定期総会を、以下の通り開催いたします。
会員の皆様には、是非ともご出席頂きたくお願い申し上げます。
開催日時：平成30年6月16日(土) 10時から11時
開催場所：パレット柏 G ルーム

初めて文科省に行ってきました

当会は、15年以上前から「教育の基本は教科書にあり」との信念から、今日まで、一貫して地方教育行政に関連する「教科書採択」を中心に教科書改善活動を行ってきました。

しかし、平成26年に検定合格し、27年採択、28年より有名国立大付属中学校及び有名私立中学校の多くが採用した「学び舎」歴史教科書は、著しく偏向したもので、あろうことか検定の責任者である検定審議会委員長までもが、学習指導要領に沿ったものではないと、朝日新聞のインタビューで答えていました。

また、NHKでも「学び舎」教科書について、クローズアップ現代で取り上げ、「学び舎」を採用した有名校への一般国民からの抗議に対し、教師・学者を登場させ、「文科省の検定を合格した教科書を使って何が悪い、文句があるなら、文科省に言え」と言わせていました。

そこで当会では、皆で本書を読み込み問題点をまとめ、文科省を訪問し問題点の指摘と、今後の改善点について、以下のような意見を申し述べ、意見書を提出してきました。

提出意見等の概略

1. 「学び舎」教科書は、統治者と民衆の争いごとばかりを記述して「階級闘争史観」を強調し、結果として時代時代を動かした統治者についての記述が非常に少なくなり「時代時代の重要な事象と変遷」の理解が困難であった。

2. また、同書は、日本の近現代史において、アジア諸国に対し残虐非道の行為を多く行った悪い国であるとの記述を多用し、「自虐史観」を強調している。

3. 一方で、ロシア革命後現代に至るまでの、共産主義国の自国民や周辺諸国民への人権無視の残虐行為について(欧米諸国の残虐行為は記述しているながら)の、記述が皆無であることの異常さを指摘した。

4. 本書は、歴史事象を、数日前に見てきた統治者に虐げられた民衆、日本人に残虐行為を受けたアジアの人々などと、感情に訴えるような筆致で、ドキュメンタリー小説風に全時代に亘り数多く記述し、歴史を、冷静で客観的ではなく、感情的に捉えさせようとしている。

5. このような、教科書たり得ない「書き物」が文科省の「検定に合格したのは、文科省の「教科書調査官」及び「検定調査審議会委員」の人選の誤りであり、今後の人選方法の改善を要望しました。 (雄)



編集・発行： 教育を正す東葛市民の会

会長： 岩渕宣仁

事務局： 永井紀雄

電話： 047-343-1936

私の感じた戦前・戦後の教育比較

上野貞芳

2月号よりのつづき

終りに ~教育改革に対する私見~

日本の教育の現状がサッチャー首相の教育改革前夜に酷似した状況にあり、英国の実施した内容が日本の戦前教育の長所に似ていることから、私は『イギリスの教育改革』を考慮しながら『日本の実情対策を盛り込んだ改革』を行うよう提言したい。

(1) 歴史には影と光の部分があるので、光を当てた歴史教科書を作る。

- ① サッチャーは自虐史觀史排除の国定カリキュラムを作成させ、全国共通テストをこれに基づいて作成実施させた。共通テストに合格させるため教員は光を当てた教科書を使うようになった。
- ② 日本でも英國にならう歴史・公民も含めた全国テストを行い正しい歴史・公民教科書採択を目指すべきだと思う。

(2) 宗教教育で規範意識改革

- ① サッチャーは英国人には国教(キリスト教)を、外国人にはそれぞれの宗教を徹底して教育させた結果、規範意識を大幅に向上させることができた。
- ② 日本でも宗教教育の奨励で精神荒廃を改善しよう。

(3) 学力向上の成果を確認

英国の学力低下は日本よりひどかったが、下記改革で大幅に改善した。

- ① 全国学力テストの実施。
- ② 成績結果を全国学校順位番付公表。
- ③ 学区制廃止で学校を選べる。
- ④ 教育水準局が学校の実態を監査する。
- ⑤ 改善できない学校は廃校を含む対策で対処。

学力向上は日本でも重要課題であり、

- ① 文科省の権限強化。
- ② 教育委員会の廃止。
- ③ 都道府県に視学官を配置などの改善により学力向上を熱望する。



「南京」そして「中国大陸」

皆さん、それをどこまで知っていますか！？

その真実が、この『映画』で明かされます。

乞う！！ご期待！！（入場無料）

平成30年8月19日(日)午後2時より上映

「キリスト教と日本人」について考えたこと

昨日11月に上野の森美術館で開催された「怖い絵」展を観に行きましたが、その中の人気の目玉の絵が、ドラローシュ作「レディ・ジェーン・グレイの処刑」という、イギリス初の女王でわずか9日間の女王でしかなく、16歳で処刑された可哀想な彼女の処刑寸前の絵ですが、彼女自身は知らないうちに周りから担ぎ上げられ(ヘンリー8世の妹の孫であるため)、しかし、ヘンリー8世の第1王女がすぐさま反撃に出て、ジェーンと担ぎ上げた一族をロンドン塔送りにします。

実はジェーンには命が助かる道がある、それはプロテスタントからカトリックに改宗すれば命は助けるという申し出があったのですが、彼女は拒否し処刑されました。

ここで考えたのは宗教についてですが、ジェーンの次の王女になったメアリーは、プロテスタントを徹底的に弾圧し「ブラッディ・メアリー」(血まみれメアリー)とあだ名され、カトリックに改宗しないプロテスタントを残酷に処刑していきました。

ほぼ同時期に、フランスも新教徒弾圧のため聖バルテルミーの大虐殺が起こります。(セーヌ川は血で真っ赤に染まったとか)

私たち日本人からすると、同じキリスト教なら新教と旧教というだけで、そんなに残酷に処刑したり殺しあったりしなくともいいと思うのですが、狭量というか不寛容というべきか。

もちろん日本でもキリスト教を弾圧した時代はありました。

16世紀に日本にキリスト教が入ってきましたが、キリシタン大名は城下の神社仏閣を壊したり硝石小樽と日本人女性50人を引き換えて(宣教師は奴隸として売って儲けた)、その為、豊臣秀吉は怒り、神社仏閣を壊さぬよう、女たちを日本に戻すよう宣教師たちを説得しています。

秀吉は、いち早く、キリスト教徒とキリスト教を広める国の危険性を見抜いていたようですね。宣教師たちは目を付けた国を侵略する尖兵の役割を果たしていたようですね。

その危機感が徳川幕府にも受け継がれて、キリスト教は完全に禁止になりました。日本は残酷な宗教戦争に巻き込まれないで済みました。

戦後マッカーサーは、日本人をキリスト教徒にするため、大量の宣教師(2,500人)と、聖書1千万冊を投入しましたが、結局殆ど誰もが信徒にならず失敗したようです。

八百万の神を信ずる大らかで、寛容な日本人には狭量で不寛容な宗教は合わなかったのでしょうか。

(葉)

ペリーの来航



当会は、会員を募集しております。

= お米と持久力 =

こんな話があります。

明治9年に東大教授として招聘されたベルツ医師が来日した時に、人力車夫が肉など食べていないのに日光まで走り通したのを体験してとても驚いたそうです。

そしてある実験が行われました。

車夫に、80kgの男を乗せて、1日30キロ、3週間走らせてみたところなんともなかつたので、食事に肉を混ぜて食べさせてみたら疲れて走れないといって3日でやめてしまったそうです。

そこで元の食事に戻したらまた走れるようになったんだそうです。

日本人の体には日本の風土に適した植物である稻や大麦、ソバなどの穀物あるいは芋類を消化する酵素や、腸内細菌が住みついていて、さらに身体中の細胞に糖質を分解してできるグルコース吸収に適した受容体がたくさんあるのだそうです。

お米を嫌わないでね！

「米」が日本人の元気の源であることは、漢字の「氣」という字を見ても分かりますね。

(仁)

今年も、筑波大付属中学校の

入学式で抗議文配布を実行

昨年は、筑波大付属中学と麻布中学の二校に分かれて、『学び舎』歴史教科書の採用に抗議するチラシを、入学式に合わせて門前で、新入生に配布しましたが、本年も、筑波大付属中学校の門前で配布しました。

本年は、偽情報により、入学式前日に行ってしまい、それでも在校生の出席日であったため、在校生に配布しました。多くの在校生が受け取ってくれ、良い反応でした。

翌日の入学式には、女性会員2名が再度訪問し、新入生、在校生、合わせて約200枚配布することが出来ました。

『学び舎』歴史教科書については、我々の活動はもとより、NHKクローズアップ現代でも取り上げられたこともあり、特に在校生の反応が昨年よりもはるかに良かつたように思えました。

(雄)

